

香川県M I C E誘致推進方策

平成28年3月

香川県M I C E誘致推進検討会

目次

I MICEを推進する意義	1
1 MICEとは	
(1) MICEの定義と意義	
(2) MICEと観光	
(3) MICEの波及効果	
II 国内外および本県のMICEの動向	4
1 国内外のMICEや他都市の動向	
(1) 世界のMICE市場動向	
(2) 日本におけるMICEの位置づけ	
(3) 国内のMICE市場動向	
(4) MICE主催者のニーズ	
2 本県のMICEの動向	
(1) 本県のMICE市場動向	
(2) 本県の宿泊施設やMICE施設の受け入れ状況	
(3) 本県のMICE誘致活動	
3 他県との比較分析	
(1) ヒアリング調査先の選出	
(2) 宿泊施設と主なMICE施設の比較	
(3) 主な開催支援メニュー	
(4) 誘致推進体制と活動の状況	
III 本県のMICE推進の方向性	24
1 MICE推進の方向性	
(1) 方向性	
(2) 本県の推進方策の構成	
IV 本県のMICE推進の課題と方策	25
1 MICE環境のレベルアップ	
①参加者の受入環境の整備	
②主催者支援、参加者への対応の充実	
2 MICE誘致の強化	
①誘致推進組織	
②マーケティング	
③人材育成、機運醸成	
④財政的支援	

I MICE を推進する意義

1 MICE とは

(1) MICE の定義と意義

①MICE とは

MICE とは企業等の会議 (Meeting)、報奨旅行 (Incentive Travel) 国際会議 (Convention)、展示会 (Exhibition) 等のビジネスイベントの総称である。

Meeting 企業等のミーティング等。 例: 海外投資家向け金融セミナー、 グループ企業の役員会議 等	Incentive (Travel) 企業が従業員やその代理店等の表彰や研修などの目的で 実施する報奨旅行のこと。企業報奨・研修旅行とも呼ばれる。 例: 営業成績の優秀者に対し、本社役員によるレセプション 等
Convention 国際団体、学会、協会が主催する総会、学術会議等。 例: 九州・沖縄サミット、世界水フォーラム、 国際解剖学学会、アジア心身医学会 等	Exhibition / Event 文化・スポーツイベント、展示会・見本市。 例: 東京国際映画祭、世界陸上競技選手権大会、 東京モーターショー、国際宝飾展 等

資料: 観光庁ホームページ

②MICE の意義

■高い経済効果

MICE 開催を通じた主催者、参加者等の消費支出は、開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出す。

■ビジネス機会やイノベーションの創出

MICE 開催は、ビジネスや研究分野の海外参加者と我が国参加者の人的ネットワーク形成や知識、情報の共有に大きな効果がある。これらを通じて、新たなビジネス機会を生み出し、科学技術の発展やイノベーションの創出に大きく資する。

■国・都市の競争力・ブランド力向上

MICE を通じた人や情報の交流・流通、ネットワーク構築の容易さなどは、国・都市の競争力・ブランド力向上に寄与する。

上記以外には、アフターコンベンションの実施による観光入り込み客数の増加や地方都市の国際化、人材育成に貢献するなどの効果が期待できる。

(2) MICE と観光

MICE と観光は、誘致対象や関係する主体が異なるが、地域への集客するツールとして相互に補完し合うものである。

MICE 開催においては、主催者の支出が地域への波及効果として加算されるところが観光と大きく異なるところである。



比較項目	一般観光	MICE
誘致対象	不特定	特定
意思決定者	個人	機関・団体
開催地決定要因	観光資源、経済性	会場、立地、宿泊施設 キーパーソン、ブランド等
参加者の行動形態	主に個人行動	主に団体行動
来訪PR 誘致主体	行政、観光協会、観光業界等	主催事務局、主催校、PCO、 コンベンションビューロー等
都市滞在期間	1都市1～2泊	会議開催中は 1都市滞在
旅程	主要観光地を周遊	会議開催地から プレ・ポストツアーの実施
支出傾向	宿泊・交通費・飲食費・おみやげ等 支出額：151,174円/人 資料：訪日外国人消費動向調査(2014年)	宿泊・交通費・飲食費・おみやげ等 + 主催者による会議場・宴会場・ 通訳等々の利用有 支出額：307,000円 (US\$2,540)/人 資料：ICCA統計2004-2013(10年間平均)
景気の影響	景気の影響を受けやすい	数年前に開催が決定されるため、 開催自体は景気等に左右されにくい

資料：「MICEの誘致・開催の促進」(平成28年2月、観光庁)を一部修正

(3) MICE の波及効果

MICE は、一般的にまちづくりや観光政策と相性がよいと言われる。

- MICE 参加者はクオリティ・ビジター

県に観光客として来訪する意思がなくても来訪し、観光より滞在期間が長い傾向

MICE における観光関連消費は一般的な観光消費を上回る

主催者や関係者により、開催経費等の組織的な支出も見込める

- 通年の需要が見込める

MICE は通年で需要、観光の閑散期も補完

- 経済不況の影響を受けにくい

主催者の多くは公的機関や団体、催事は定例開催

- ロコミ効果

発信力や影響力のある参加者による都市の魅力の PR 効果

- 再訪問につながる

気に入った開催地に旅行者として再訪問

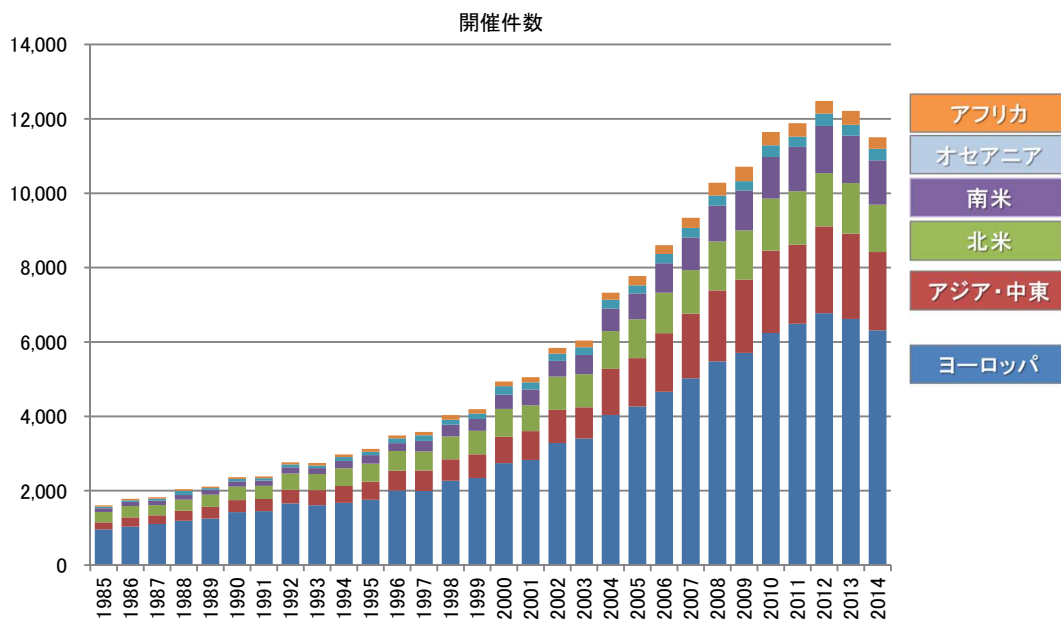
II 国内外および本県の MICE の動向

1 国内外の MICE や他都市の動向

(1) 世界の MICE 市場動向

①世界の国際会議

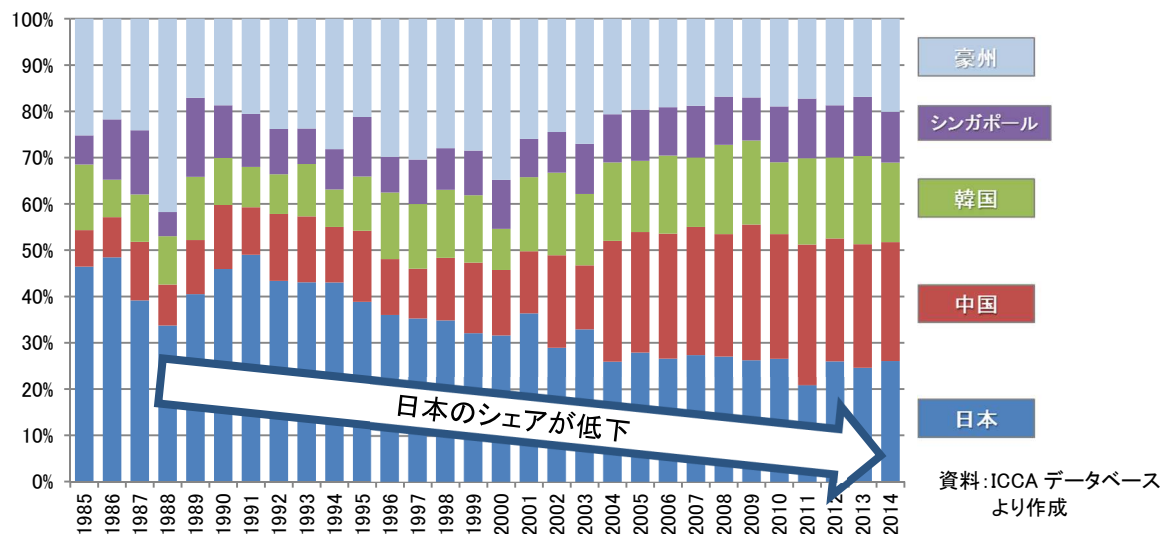
90年代前半ごろまでは、①ヨーロッパ、②北米、③アジア・中東、その後、アジア・中東が伸びて北米と拮抗していたが、ここ10年で、①ヨーロッパ、②アジア・中東、③北米の順になっている。



資料:ICCA データベースより作成

②アジア・大洋州地域におけるシェア

日本の開催件数は伸びているが、競合国の市場の成長により、地域でのシェアは落としている。



資料:ICCA データベースより作成

(2) 日本における MICE の位置づけ

①国際会議観光都市の認定

コンベンション法※に基づき、国際会議を通じた都市づくりに積極的に取り組む全国の53都市（平成27年7月現在）が国際会議観光都市として指定されている。

香川県高松市も国際会議観光都市である。



MICE（コンベンション）単独の戦略や総合計画を策定している都市は少なく、観光振興計画の一環で、MICE・コンベンションの計画が策定している都市がほとんどである。MICE・コンベンションについての総合戦略を策定しているのは、新規施設の整備に伴い策定した都市を除くと、札幌市、千葉市、横浜市、京都市、福岡市、岡山市などにとどまる。

※コンベンション法

国際会議等の誘致開催を促進する法律で、平成6年に施行。正式名称は「国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律」。以下の条件が必要とされている。

- ・国際会議場施設等が整備されていること
- ・宿泊施設等が整備されていること
- ・国際会議等の誘致体制が整備されていること
- ・近傍に観光資源が存在すること

②日本の MICE 誘致力の強化、都市の育成

MICE グローバル戦略都市に選定された都市において、海外との競争を勝ち抜くため、観光庁・JNTO が支援事業を実施している。

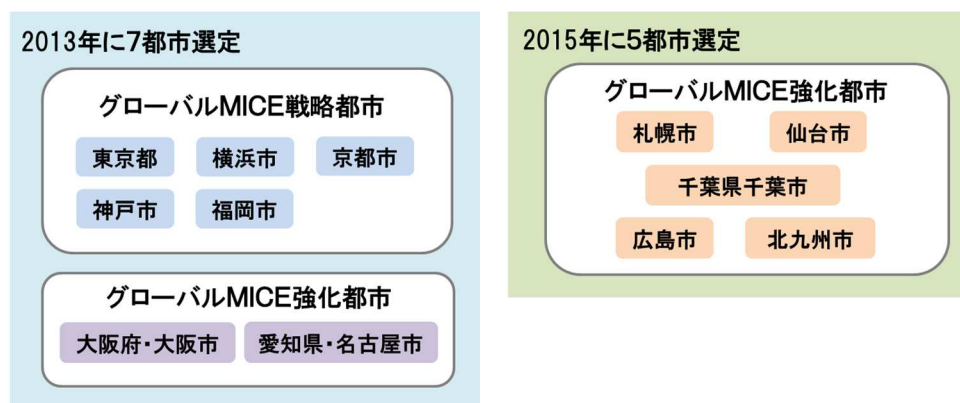
1) 選定の目的

海外競合国・都市との厳しい MICE 誘致競争に打ち勝ち、我が国の MICE 誘致競争を牽引することができる実力ある都市を強化や育成することを目的としている。

2) 実施事業

2年間に以下の事業を実施することとしている。

- ・アドバイザー派遣（海外 MICE 専門家派遣、コンサルティング実施）
- ・プロモーション支援（海外 MICE 専門誌へ都市情報掲載）
- ・ステークホルダーの連携促進（セミナー等開催の講師派遣等実施）
- ・市場・競合都市の調査分析（国内外の客観的なデータからの現状把握、効果的なポイント探索）
- ・地域経済波及効果測定モデルの開発（地域で活用できるモデルの改良）



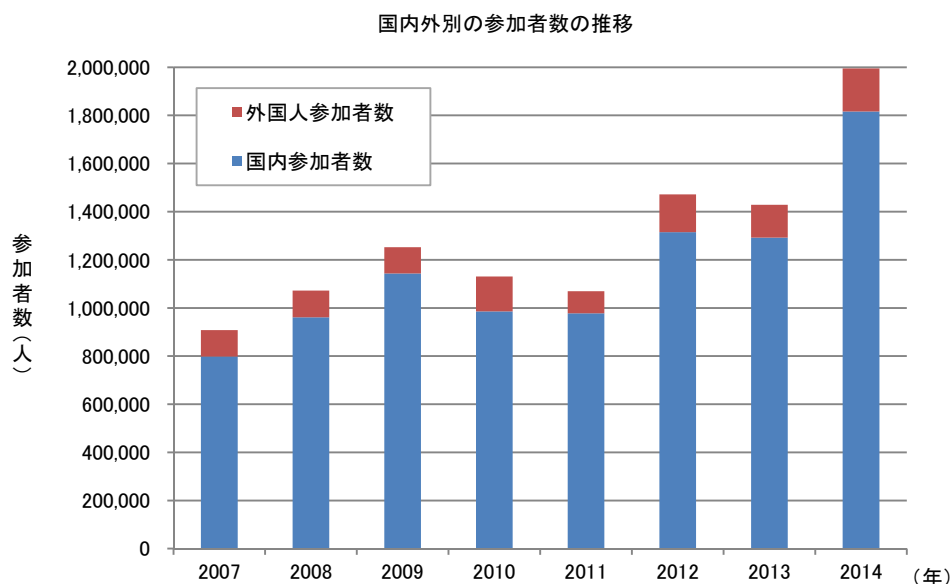
これらの都市は、誘致活動や推進体制、会場や地域の受入環境などの総合的な観点から評価されている。

他の都市においては、MICE に関する地域資源が限られるなか、これらの都市との競争を回避し、特色を活かす方向性が求められる。

(3) 国内の MICE 市場動向

①国際会議の参加者数

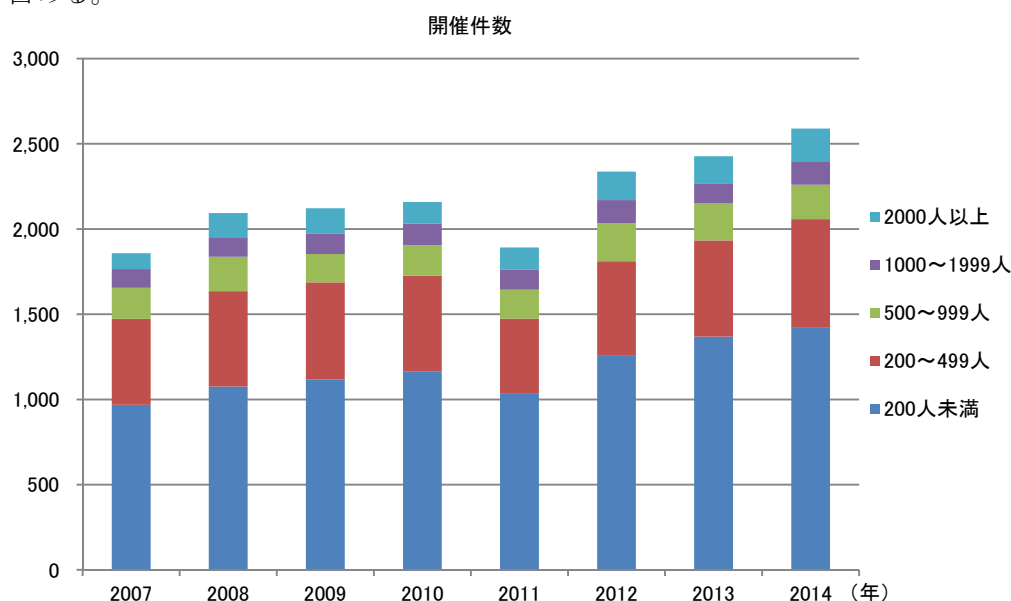
国内における国際会議参加者数は、概ね増加傾向にある。外国人参加者の比率は1割程度である。



資料:2014年国際会議統計(JNTO)

②国際会議の開催件数

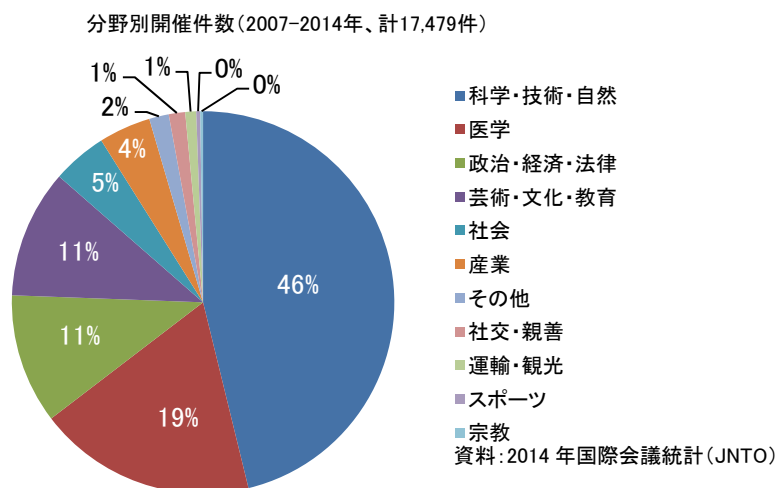
国内における国際会議開催件数は、東日本大震災のあった2011年を除き、年々増加している。比較的小規模な催事が多く、開催件数の約50%を200人未満、約80%を500人未満が占める。



資料:2014年国際会議統計(JNTO)

③国際会議の分野別開催件数比率

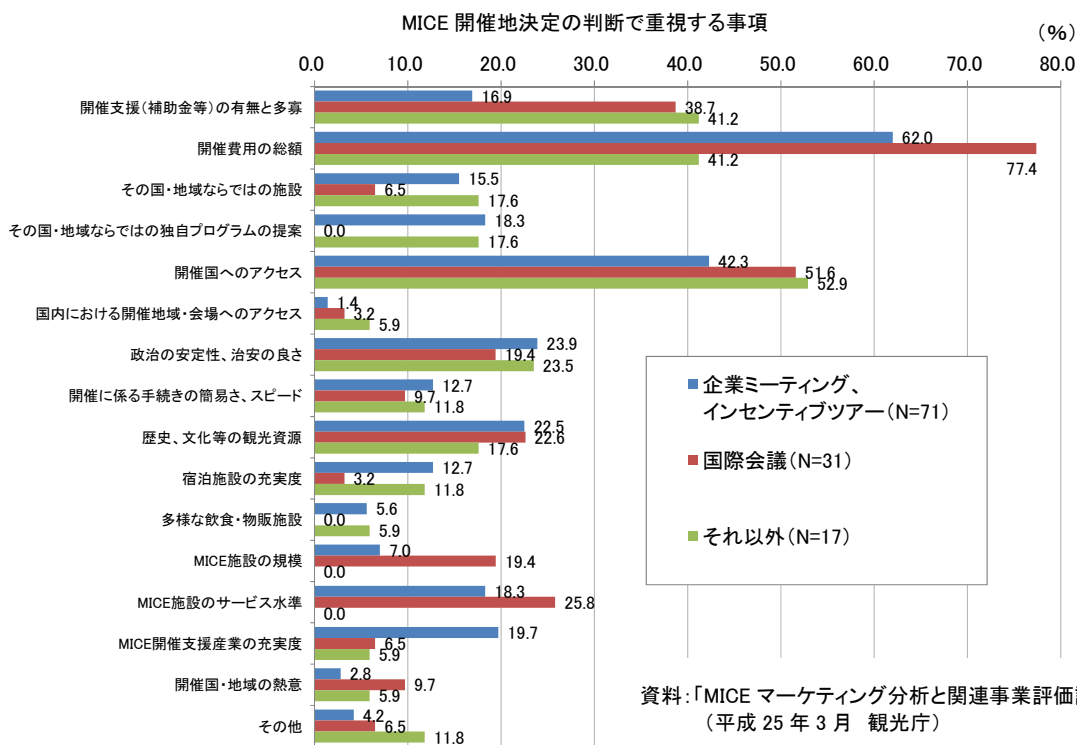
催事内容を分野別にみると、「科学・技術・自然」分野で約半数を占め、次いで「医学」が多い。



(4) MICE 主催者のニーズ

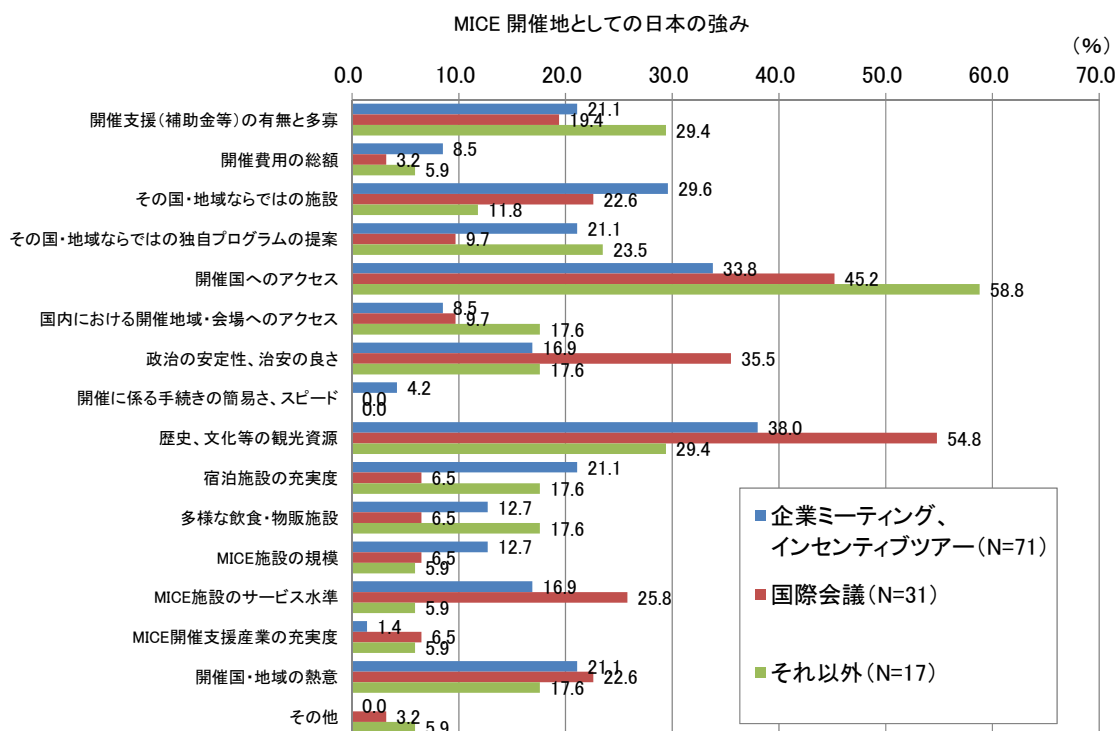
①MICE 主催者が開催地決定での重視事項

海外の MICE 主催者は、「開催国へのアクセス」という物理的な制約を除けば、開催地決定にあたり、「開催費用総額」や「開催支援(補助金等)の有無と多寡」を重視している。



②MICE 主催者が認識している日本の強み・弱み

国際会議では「歴史・文化等の観光資源」や「治安の良さ」を、企業ミーティング・インセンティブツアーでは「歴史・文化等の観光資源」や「その国・地域ならではの施設」を日本の強みに挙げている。地域の魅力を生かした体験プログラムやユニークベニュー※などへのニーズ対応が求められる。



資料:「MICE マーケティング分析と関連事業評価調査」
(平成 25 年 3 月 観光庁)

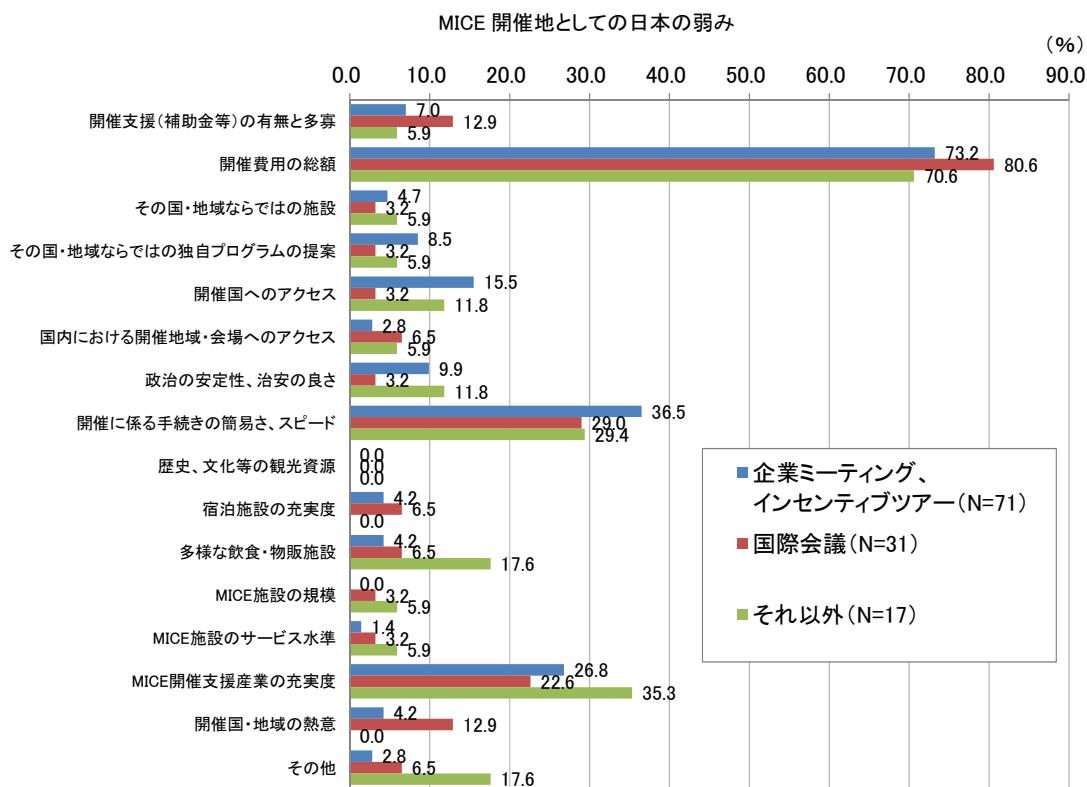
【ユニークベニュー】※

- ・美術館や博物館、歴史的建造物や神社仏閣等をおもてなしの場として活用すれば、開催地の自然や歴史、文化等の場と素材による演出を通じて、思い出に残る深い体験を主催者・参加者に提供できる。
- ・MICE のなかでも、国際会議やインセンティブの主催者へ開催地をアピールできる素材である。
- ・必ずしも歴史や文化遺産等に限らず、近年は、道路や商店街等の公共空間、鍾乳洞などの設定も出現している。
- ・MICE 開催の一会場として実現すると波及効果が非常に大きい一方、施設管理者はもちろん、重要文化財であれば教育委員会や文化庁等、公共の場であれば行政や警察署、道路管理者、その他保健所など、多くの所轄との調整が必要である。

※ユニークベニュー

歴史的建造物や文化施設等公共空間で会議やパーティを開催することで、参加者への特別感や地域特性を演出する会場

一方、弱みは「開催費用の総額」が圧倒的である（内訳では、航空費より宿泊費の回答が多い）。次いで「開催に係る手続きの簡易さ、スピード」の運営面の問題が挙げられている。



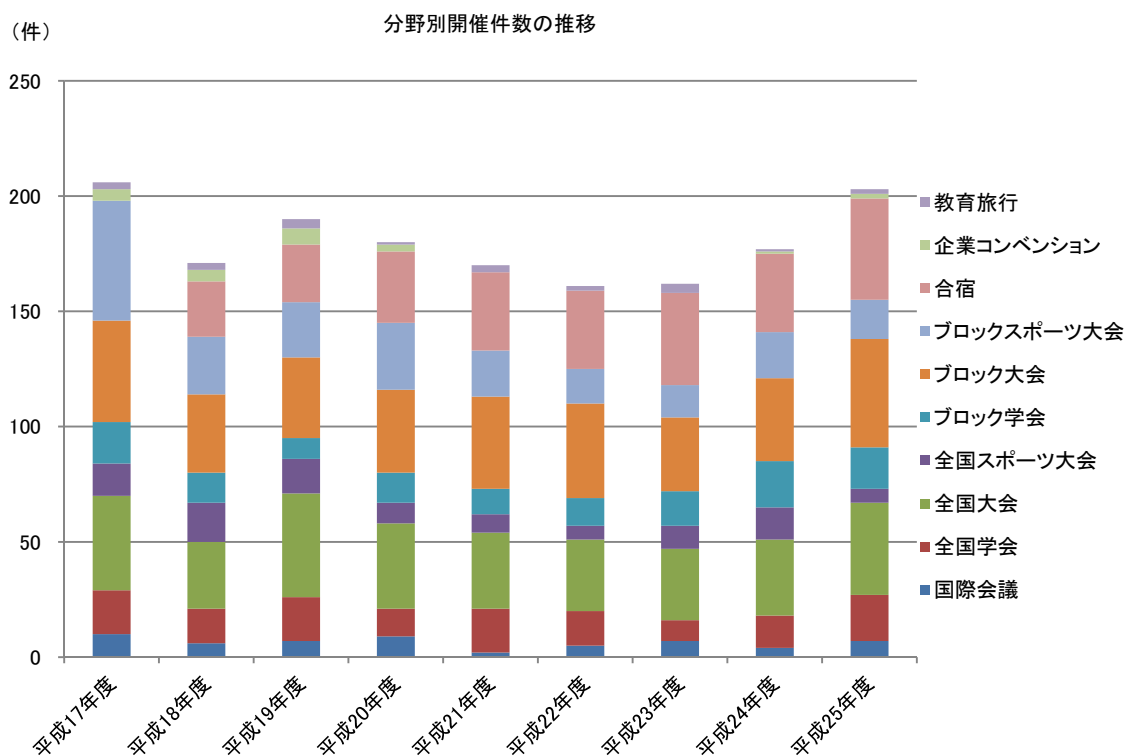
資料:「MICE マーケティング分析と関連事業評価調査」
(平成 25 年 3 月 観光庁)

2 本県の MICE の動向

(1) 本県の MICE 市場動向

① 分野別開催件数

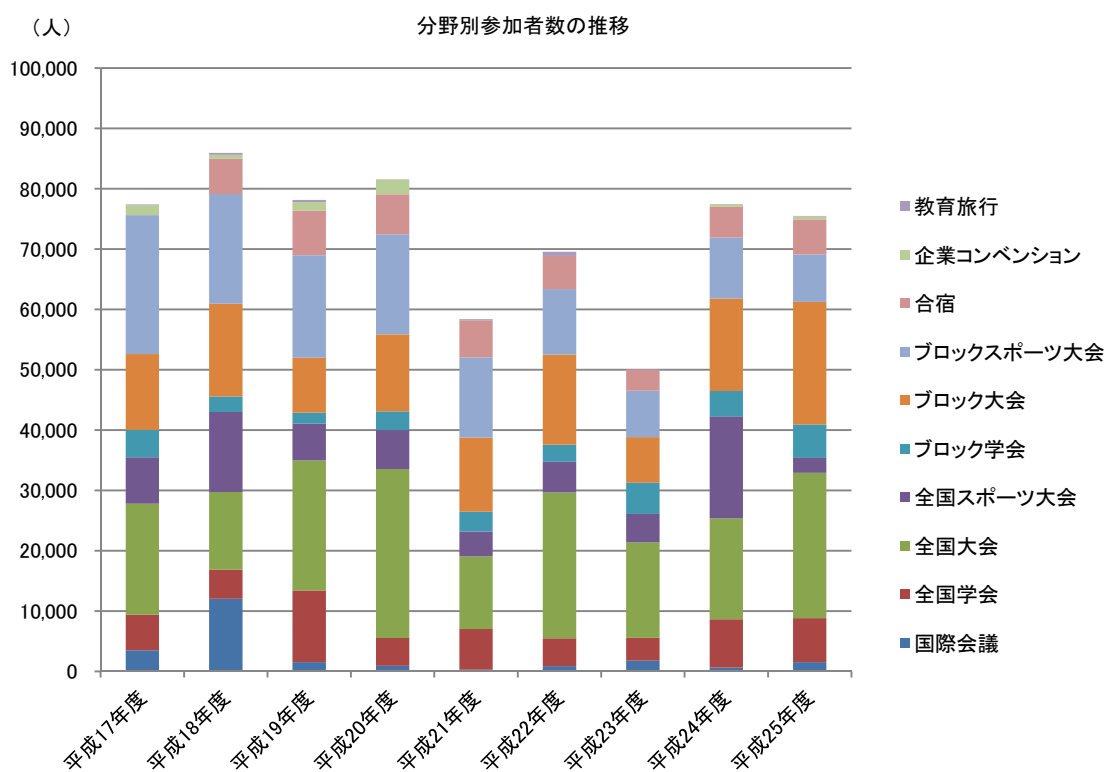
開催件数が多いのは「ブロック大会」、次いで「合宿」「全国大会」である。「合宿」の伸びが顕著な一方、他の分野は概ね横ばいである。「ブロックスポーツ大会」の減少幅が大きい。



資料:「コンベンション関係統計資料」(公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロー)
「高松市および近隣町(三木町、直島町、綾川町)で開催された四国規模以上の大会をもとに、主催者、宿泊施設、会議施設等からの情報をもとに作成」されたもの(以下のページも同様)。

②分野別参加者数

総参加者数は年度によりバラツキがあるが、概ね7～8万人程度で推移している。
参加者数が多いのは「全国大会」、次いで「ブロック大会」である。
全国規模催事の増減のバラツキが参加者総数に大きく影響している。
開催件数が減少傾向にある「ブロックスポーツ大会」の参加者数減少が著しい。



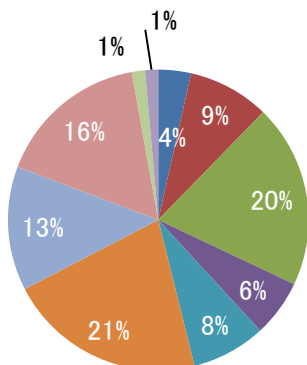
資料:「コンベンション関係統計資料」(公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロー)

③件数や参加者数の構成比

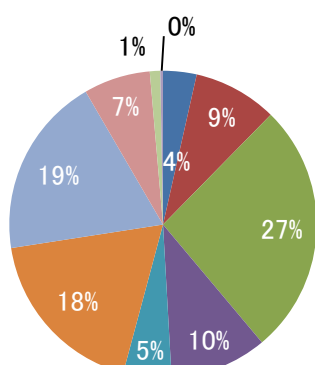
開催件数の構成比では「ブロック大会」「全国大会」「合宿」「ブロックスポーツ大会」で7割を占める。参加者数の構成比では「全国大会」の割合が最も大きく、次いで「ブロックスポーツ大会」と「ブロック大会」である。

地域別参加者数の構成比では「県外参加者」が7割を超える。

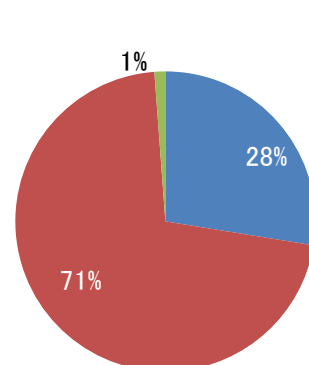
分野別開催件数の構成比
(平成17年度～平成25年度)



分野別参加者数の構成比
(平成17年度～平成25年度)



地域別参加者数の構成比
(平成17年度～平成25年度)

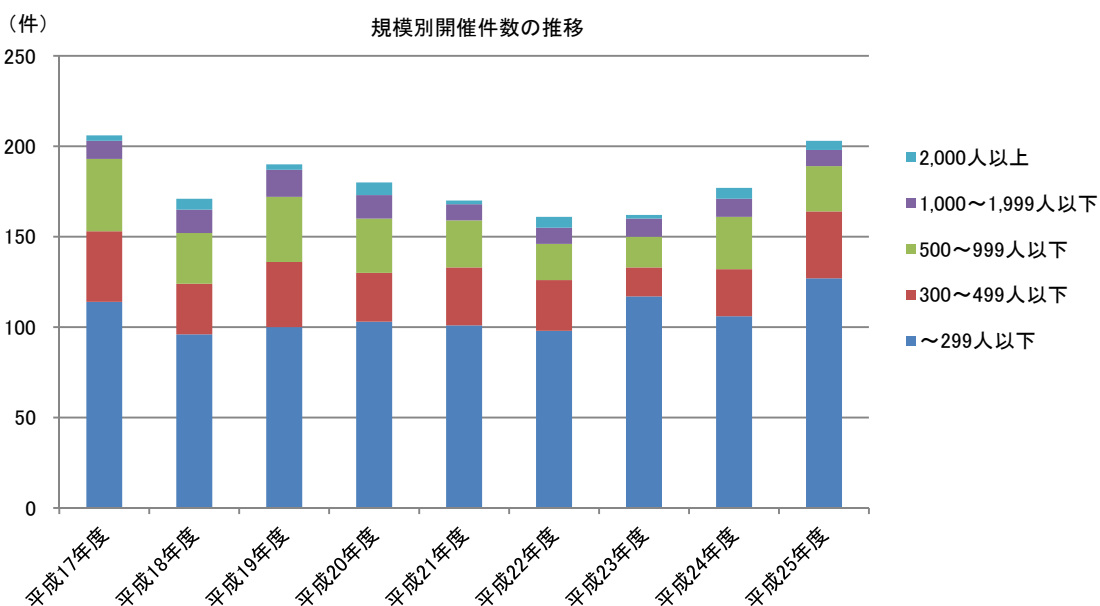


- | | | | | | | |
|--------------|------------|--------------|------------|------|------|------|
| ■ 国際会議 | ■ 全国大会 | ■ 国際会議 | ■ 全国大会 | ■ 県内 | ■ 県外 | ■ 国外 |
| ■ 全国大会 | ■ 全国スポーツ大会 | ■ 全国大会 | ■ 全国スポーツ大会 | | | |
| ■ ブロック学会 | ■ ブロック大会 | ■ ブロック学会 | ■ ブロック大会 | | | |
| ■ ブロックスポーツ大会 | ■ 合宿 | ■ ブロックスポーツ大会 | ■ 合宿 | | | |
| ■ 企業コンベンション | ■ 教育旅行 | ■ 企業コンベンション | ■ 教育旅行 | | | |

資料:「コンベンション関係統計資料」
(公益財団法人高松観光
コンベンション・ビューロー)

④規模別開催件数

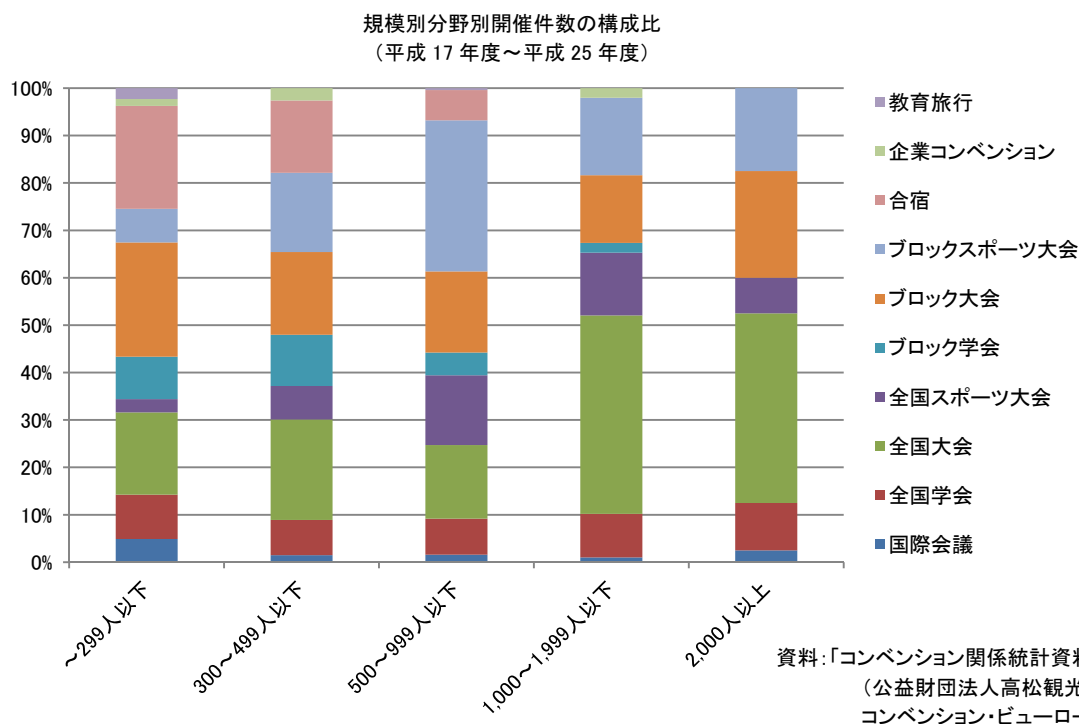
200人未満の参加者が件数の半数以上を占めている。



資料:「コンベンション関係統計資料」(公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロー)

⑤規模別分野別開催件数

「全国学会」と「ブロック大会」は、比較的小規模から大規模な範囲で開催されている。

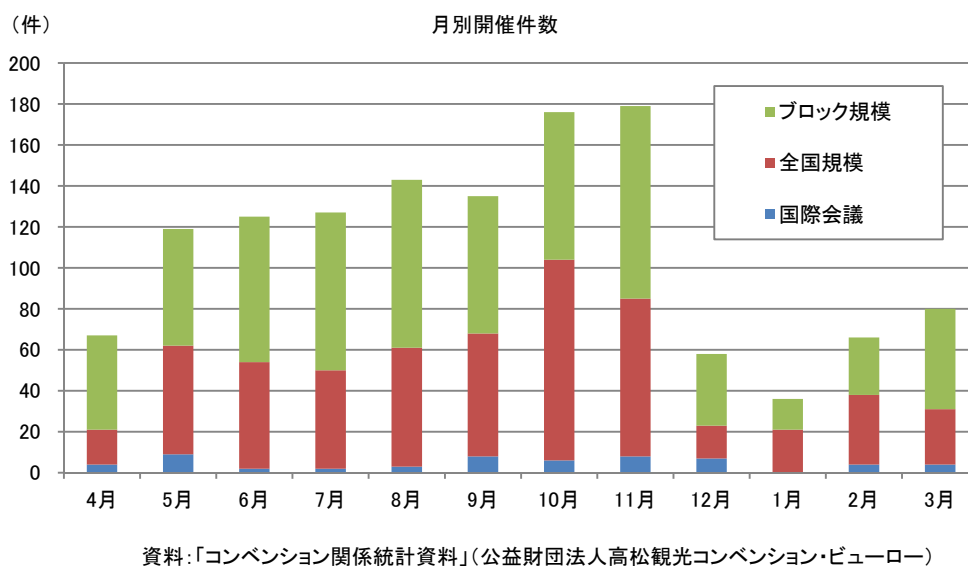


⑥月別開催件数

繁忙期は、夏から秋にかけてで、最繁忙期は 10 月～11 月である。

閑散期は、冬から春にかけてで、最閑散期は 12 月～1 月である。

「国際会議」は、件数は少ないものの比較的年間を通じて開催されており、閑散期にも開催されている。



(2) 本県の宿泊施設やMICE施設の受け入れ状況

① 宿泊施設の概要

	総施設数	総客室数	宿泊可能人数
ホテル	40	4,264	5,950
旅館	14	475	2,064
合計	54	4,739	8,014

資料: JNTO ホームページ

② 主な MICE 施設の概要

本県において MICE 開催拠点となるのは、サンポート地区のかがわ国際会議場、サンポートホール高松、JR ホテルクレメント高松である。

ハード面では、サンポートホール高松はコンサートを行う劇場ホールとして充実している。かがわ国際会議場は会場数が少ないが、隣接の民間ホテルと連携することで MICE 開催に対応できる。

ソフト面では、会議場とホール、ホテルとで運営者が異なり窓口が分かれているため、会場使用の予約や成約後の打合せ等で主催者の負担があり、喫緊の課題となっている。



① かがわ国際会議場

運営: シンボルタワー開発株式会社(事業主・指定管理者)

② サンポートホール高松

運営: 公益財団法人高松市文化芸術財団(指定管理者)

③ JRホテルクレメント高松

① かがわ国際会議場

会場名称	面積(m ²)	最大収容人数 (シアター時)
かがわ国際会議場	400	300
展示場	400	-

② サンポートホール高松

会場名称	面積(m ²)	最大収容人数 (シアター時)
大ホール	1500席	1,500
第1小ホール	312席	312
第2小ホール	308席	308
第1リハーサル室	300	179
第2リハーサル室	94	65
第3リハーサル室	148	95
練習室	6室	49
61会議室	166	144
54会議室	137	120
その他会議室	10室	
市民ギャラリー	162	-
コミュニケーションプラザ	156	-

③ JRホテルクレメント高松

会場名称	面積(m ²)	最大収容人数 (シアター時)
飛天	1,200	1,400
玉藻	550	600
楓	56	50
桐	60	60
桂	60	60
樺	60	60
雅	100	120
霞・暁(連結)	128	150
華	58	50
シエロ	215	150

資料: 各施設のホームページ・
施設ガイド等の公開情報より

(3) 本県の MICE 誘致活動

①目的

サンポート高松に整備した国際会議場等のコンベンション施設を活用し、MICE を誘致することにより交流人口の増加を図る。

②課題

コンベンション都市としてのポテンシャルと国内外における認知度を向上させるため、特に政府系の国際会議の開催件数を増加させ、本県のブランドイメージを向上させる必要がある。

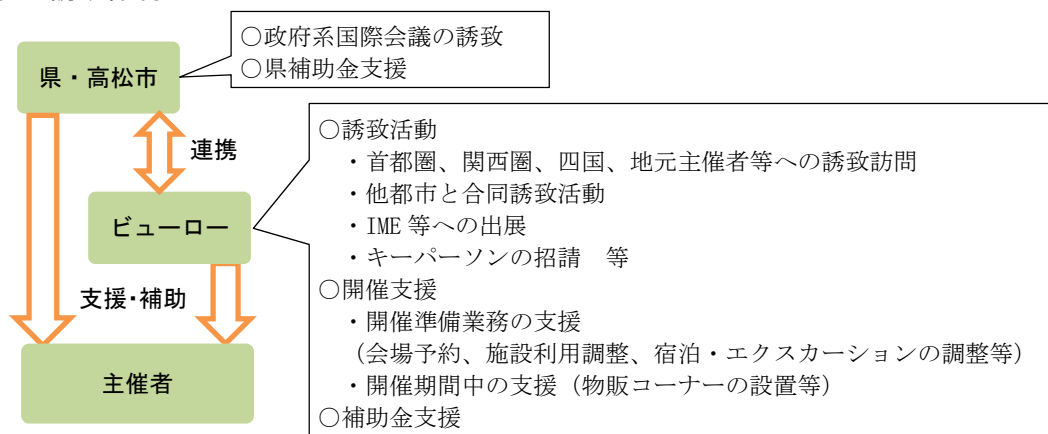
③誘致活動の状況

- ・高松観光コンベンション・ビューローや県、高松市、各種コンベンション施設（シンボルタワー開発、サンポートホール高松、アルファあなぶきホール）の合同で実施している。
- ・首都圏にある各種学会や協会、財団等の事務局を訪問し、施設や観光に関する情報提供や開催に係る補助金制度などの PR を実施している。

■主な MICE 誘致・支援事業

- ・高松観光コンベンション・ビューローとの協働による誘致活動
- ・高松観光コンベンション・ビューローが行う誘致活動に対する補助
- ・ユニークベニューを採り入れたコンベンションモデルの提案
- ・県や高松市、高松観光コンベンション・ビューローによる国際会議誘致連絡会議の開催
- ・国際ミーティング・エキスポへの出展
- ・Meet Japan キーパーソン招請（フランスやイギリスなどから来日） など

■現在の誘致体制



3 他県との比較分析

(1) ヒアリング調査先の選出

本県の今後の誘致推進に参考となるしくみや方策などを検討するため、都市規模や誘致の取り組み状況が類似する都市からヒアリング調査対象を選出した。

①選出基準

■都市の規模

- ・人口が類似する都市から選出

■誘致の取り組み

- ・国際会議観光都市
- ・年平均3件以上のMICEを開催（JNTO国際会議統計基準）
- ・大都市や政令指定都市を除く
- ・2013年選定のグローバル戦略・強化都市7都市を除く
（東京、横浜市、愛知県名古屋市、京都市、大阪府大阪市、神戸市、福岡市）
- ・2015年グローバルMICE強化都市5都市を除く
（札幌市、仙台市、千葉県千葉市、広島市、北九州市を除く）

②ヒアリング調査都市の選出

選定にあたり、複数候補の中から事前に公開情報等のクイック調査や簡易なヒアリングを行ったうえで、富山県と島根県の2県を選出した。

(2) 宿泊施設と主な MICE 施設の比較

①立地状況

本県の主な MICE 施設は、サンポート地区において多様な会場と宿泊施設や商業施設が集積しているため、連携することで MICE 開催に対応することができる。

本県と島根は、主要駅から徒歩 10 分圏内（800m=80m・分×10 分）に主な MICE 施設が立地している。富山は、主要駅から路面電車で 5 分圏内に、主な MICE 施設間が徒歩 10 分圏内に立地している。

■主要駅に近接する主な MICE 施設（カッコ内は主な会場の種類）

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">香川県</p>	<p>かがわ国際会議場・展示場(中央奥) サンポートホール高松(中央下、右) JRホテルクレメント高松(左)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●かがわ国際会議場・展示場 (会議場、展示場) ●サンポートホール高松 (劇場ホール) ◆JRホテルクレメント高松 (宴会場) <p style="text-align: right;">} JR 高松駅前</p> <ul style="list-style-type: none"> ●香川県県民ホール (劇場ホール) ●香川県立ミュージアム (劇場ホール、展示場) <p style="text-align: right;">} JR 高松駅から 700m</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">富山県</p>	<p>富山国際会議場(手前) ANA クラウンプラザホテル富山(奥)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●富山国際会議場 (会議場) ◆ANA クラウンプラザホテル富山 (宴会場) <p style="text-align: right;">} JR 富山駅から 1,500m</p> <ul style="list-style-type: none"> ●富山県民会館 (劇場ホール、展示場、会議室) ◆富山第一ホテル (宴会場) <p style="text-align: right;">} JR富山駅から 800m</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">島根県</p>	<p>くにびきメッセ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●くにびきメッセ (展示場、会議場) <p style="text-align: right;">JR 松江駅から 700m</p> <ul style="list-style-type: none"> ●松江テルサ (劇場ホール、会議室) <p style="text-align: right;">JR 松江駅前</p> <ul style="list-style-type: none"> ●島根県民会館 (劇場ホール、会議室) <p style="text-align: right;">JR 松江駅から 1,600m</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆松江エクセルホテル東急 (宴会場) <p style="text-align: right;">JR 松江駅から 350m</p>

②宿泊施設の収容力

3県で宿泊可能人数を比較すると、本県が最も収容力が小さい。

●香川

	総施設数	総客室数	宿泊可能人数
ホテル	40	4,264	5,950
旅館	14	475	2,064
合計	54	4,739	8,014

●富山

	総施設数	総客室数	宿泊可能人数
ホテル	92	8,027	12,486
旅館	399	7,173	15,541
合計	491	15,200	28,027

●島根

	総施設数	総客室数	宿泊可能人数
ホテル	20	3,294	4,623
旅館	32	1,153	5,370
合計	52	4,447	9,993

資料:JNTO ホームページ

③規模別会場数（会場種類別）

サンポート地区のMICE施設は、劇場ホールは充実しているが、展示会場は不足している。

※横軸数字は、シアター形式での収容規模(人数)を表記し、会場機能別に会場件数をカウント
 展示会場およびシアター形式での収容人数不明の会場については1㎡1人で換算
 劇場は座席数を1席1人で換算

劇場ホール(段床固定席のホール)は、収容力が大きく、会場数も充実している。

展示会場は規模が小さく、会場数も少ない

●香川(かがわ国際会議場・展示場、サンポートホール高松、香川県民ホール、香川県立ミュージアム、JRホテルクレメント高松)

会場機能の種類	1-50	51-100	101-150	151-200	201-250	251-300	301-350	351-400	401-450	451-500	501-600	601-700	701-800	801-900	901-1000	1001-1500	1501-2000	2001-2500	2501-3000	3001-3500	合計(件)	(%)	
会議室	29	1	2			1				1												35	51%
展示会場								1				1										2	3%
多目的ホール	7	4	1	4			1															17	25%
劇場ホール					1		1									1						5	7%
宴会場	2	3	3								1						1					10	14%
会場数合計	38	8	6	4	2	1	2	1		1	1	1		1		2				1		69	100%

●富山(富山国際会議場、富山県民会館、ANAクラウンプラザホテル富山、富山第一ホテル)

会場機能の種類	1-50	51-100	101-150	151-200	201-250	251-300	301-350	351-400	401-450	451-500	501-600	601-700	701-800	801-900	901-1000	1001-1500	1501-2000	2001-2500	2501-3000	3001-3500	合計(件)	(%)	
会議室	28	3	2	1	1			1							1							37	65%
展示会場																	1					2	4%
多目的ホール			2																			2	4%
劇場ホール																	1					1	2%
宴会場	6	6					1							1	1							15	26%
会場数合計	34	9	4	1	1		1	1						1	2	1	2					57	100%

●島根(くにびきメッセ、松江テルサ、島根県民会館、松江エクセルホテル東急)

会場機能の種類	1-50	51-100	101-150	151-200	201-250	251-300	301-350	351-400	401-450	451-500	501-600	601-700	701-800	801-900	901-1000	1001-1500	1501-2000	2001-2500	2501-3000	3001-3500	合計(件)	(%)	
会議室	26	10	2	2		1					1											42	75%
展示会場					1															(1)	(1)	3	5%
多目的ホール	1		1			2						1										5	9%
劇場ホール				1						2							1					4	7%
宴会場	1				1																	2	4%
会場数合計	28	10	3	3	2	3					3	1				2				1		56	100%

※くにびきメッセの展示会場は、2/3分割で3,000人収容、1/3分割で1,800人収容。全スパン利用時は5,000人収容。

※横軸数字は、シアター形式での収容規模(人数)を表記し、会場機能別に会場件数をカウント
 展示会場およびシアター形式での収容人数不明の会場については1㎡1人で換算
 劇場は座席数を1席1人で換算

●香川

施設名	会場規模の種類																			合計 (件)	(%)	
	1-50	51-100	101-150	151-200	201-250	251-300	301-350	351-400	401-450	451-500	501-600	601-700	701-800	801-900	901-1000	1001-1500	1501-2000	2001-2500	2501-3000	3001-3500		
かがわ国際会議場・展示場						1		1													2	3%
サンポートホール高松	16	2	2	3			2								1						26	38%
香川県民ホール	20	2	1	1	1				1				1					1			28	41%
香川県立ミュージアム		1			1							1									3	4%
JRホテルクレメント高松	2	3	3								1				1						10	14%
会場数合計	38	8	6	4	2	1	2	1		1	1	1		1	2			1			69	100%

●富山

施設名	会場規模の種類																			合計 (件)	(%)	
	1-50	51-100	101-150	151-200	201-250	251-300	301-350	351-400	401-450	451-500	501-600	601-700	701-800	801-900	901-1000	1001-1500	1501-2000	2001-2500	2501-3000	3001-3500		
富山国際会議場	2	1						1						1							5	9%
富山県民会館	26	2	4	1	1								1			2					37	65%
ANAクラウンプラザホテル富山	2	4					1							1							8	14%
富山第一ホテル	4	2													1						7	12%
会場数合計	34	9	4	1	1		1	1					1	2	1	2					57	100%

●島根

施設名	会場規模の種類																			合計 (件)	(%)	
	1-50	51-100	101-150	151-200	201-250	251-300	301-350	351-400	401-450	451-500	501-600	601-700	701-800	801-900	901-1000	1001-1500	1501-2000	2001-2500	2501-3000	3001-3500		
くにびきメッセ	16	1		2		1					1	1					(1)		(1)		24	43%
松江テルサ	8	1	1	1							1										12	21%
島根県民会館	3	8	2		1	2				1						1					18	32%
松江エクセルホテル東急	1				1																2	4%
会場数合計	28	10	3	3	2	3					3	1				2			1		56	100%

※くにびきメッセの展示会場は、2/3分割で3,000人収容、1/3分割で1,800人収容。全スパン利用時は5,000人収容。

④会場種別面積

サンポート地区のMICE施設における展示会場の面積割合は非常に少ないため、現状のままでは、展示会併催の中規模以上の学会等の開催や企業の商談等を伴う展示会の開催が困難である。

なお展示場、市民ギャラリー、コミュニケーションズプラザを併用して展示会を開催している事例もある。

※数字はシアター形式での収容人数を表記
 展示会場およびシアター形式での収容人数不明の会場については、1㎡1人で換算(下線部)
 劇場は座席数を1席1人で表記(下線部)

サンポート地区のMICE施設においては、展示会場が非常に少ない。

サンポート地区の劇場ホールは充実している。劇場ホールは、コンサートや単発の講演会開催には使いやすいが、段床固定席による会場であるため多用途に活用できない。

●香川

会場の種類	かがわ国際会議場・展示場、サンポートホール高松、香川県県民ホール、香川県立ミュージアム、JRホテルクレメント高松														収容人数合計 12,137人				
会議室	500	300	220	144	120	72	45	45	40	36	32	30	30	30			1,960	16%	
	30	30	24	24	24	20	18	18	18	12	12	12	12	6	6				
	6	6	6	1	1														
展示会場	698	400															1,098	9%	
多目的ホール	308	187	179	162	156	110	95	65	63	55	49	32	29	10	10		1,530	13%	
	10	10																	
劇場ホール	2,001	1,500	807	312	229												4,849	40%	
宴会場	1,400	600	150	150	120	60	60	60	50	50							2,700	22%	

●富山

会場の種類	富山国際会議場、富山県民会館、ANAクラウンプラザホテル富山、富山第一ホテル															収容人数合計 8,892人			
会議室	825	400	210	200	120	120	100	81	60	45	45	42	36	36	36		2,758	31%	
	36	36	30	24	24	24	24	24	24	18	18	12	12	12	12				
	12	12	12	12	10	8	6												
展示会場	1,110	193															1,903	21%	
多目的ホール	149	129															278	3%	
劇場ホール	1,105																1,105	12%	
宴会場	1,000	898	340	100	100	72	70	65	55	36	30	26	26	15	15		2,848	32%	

●島根

会場の種類	くにびきメッセ、松江テルサ、島根県民会館、松江エクセルホテル東急															収容人数合計 12,091人			
会議室	510	282	200	200	120	106	84	82	82	76	63	61	61	55	54		2,495	21%	
	54	48	42	37	26	24	24	20	18	14	12	12	12	12	10				
	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	6							
展示会場	(3,000)	(1,800)	226														5,026	42%	
多目的ホール	650	300	254	136	30												1,370	11%	
劇場ホール	1,619	580	576	160													2,935	24%	
宴会場	225	40															265	2%	

※くにびきメッセの展示会場は、2/3分割で3,000人収容、1/3分割で1,800人収容。全スパン利用時は5,000人収容。

展示会場の不足は、ホテル宴会場を展示会場として利用することで、サンポート地区でのMICE開催に対応する方策を取らざるを得ない状況。
 (展示会場の不足を、高松市総合体育館やサンメッセ香川で補完するには、距離が離れ過ぎ困難)。

※数字はシアター形式での収容人数を表記

展示会場およびシアター形式での収容人数不明の会場については、1㎡1人で換算(下線部)

劇場は座席数を1席1人で表記(下線部)

展示会場の不足は、ホテル宴会場を展示会場として利用することで、サンポート地区でのMICE開催に対応する方策を取らざるを得ない状況。

大規模なMICE開催に際しては、展示会場として、十分な面積を確保できない。
既存の展示会場はやや離れているため、連動利用はできず、移動負担を伴う。

●香川

かがわ国際会議場・展示場														収容人数合計		700人	
会議室	300													300	43%		
展示会場	400													400	57%		
サンポートホール高松														収容人数合計		3,488人	
会議室	144	120	45	45	36	32	30	30	30	30	30	18		590	17%		
多目的ホール	308	179	162	156	95	65	49	32	10	10	10	10		1,086	31%		
劇場ホール	1,500	312												1,812	52%		
香川県民ホール														収容人数合計		4,250人	
会議室	500	220	40	30	24	24	24	20	18	18	12	12	12	12	6	998	23%
	6	6	6	6	1	1											
多目的ホール	187	110	63	55	29											444	10%
劇場ホール	2,001	807														2,808	66%
香川県立ミュージアム														収容人数合計		999人	
会議室	72															72	7%
展示会場	698															698	70%
劇場ホール	229															229	23%
JRホテルクレメント高松														収容人数合計		2,700人	
宴会場	1,400	600	150	150	120	60	60	60	50	50						2,700	100%

●富山

富山国際会議場														収容人数合計		1,379人	
会議室	825	400	100	30	24									1,379	100%		
富山県民会館														収容人数合計		4,665人	
会議室	210	200	120	120	81	60	45	45	42	36	36	36	36	24	1,379	30%	
	24	24	24	24	18	18	12	12	12	12	12	12	12	10			
	8	6															
展示会場	1,110	793														1,903	41%
多目的ホール	149	129														278	6%
劇場ホール	1,105															1,105	24%
ANAクラウンプラザホテル富山														収容人数合計		1,596人	
宴会場	898	340	100	72	65	55	36	30								1,596	100%
富山第一ホテル														収容人数合計		1,252人	
宴会場	1,000	100	70	26	26	15	15									1,252	100%

●島根

くびきメッセ														収容人数合計		6,880人	
会議室	510	200	200	54	24	20	12	12	10	8	8	8	8	8	8	1,130	16%
	8	8	8	8	8												
展示会場	(3,000)	(1,800)														4,800	70%
多目的ホール	650	300														950	14%
松江テルサ														収容人数合計		1,081人	
会議室	120	63	42	24	18	14	12	12	6							311	29%
多目的ホール	30															30	3%
劇場ホール	580	160														740	68%
島根県民会館														収容人数合計		3,865人	
会議室	282	106	84	82	82	76	61	61	55	54	48	37	26			1,054	27%
展示会場	226															226	6%
多目的ホール	254	136														390	10%
劇場ホール	1,619	576														2,195	57%
松江エクセルホテル東急														収容人数合計		265人	
宴会場	225	40														265	100%

※くびきメッセの展示会場は、2/3分割で3,000人収容、1/3分割で1,800人収容。全スパン利用時は5,000人収容。

(3) 主な開催支援メニュー

3 県の主な開催支援メニューに大きな差はない。

本県の独自性ある支援メニューの開発が望まれる。

支援メニュー	(公財)高松観光 コンベンションビューロー	(公財) 富山コンベンションビューロー	松江コンベンションビューロー (一財)くにびきメッセ
助成金制度	最高限度額 1,000万円 国際会議の場合 香川県と高松市合算	最高限度額 1,300万円 国際規模の場合 富山県と富山市合算	最高限度額 1,000万円 島根県と松江市合算
開催地立候補の 提案書類の作成	○	○	○
事前視察の受入れ	○	○	○
宿泊施設の割引	×	×	×
会議施設の割引	施設により早期割引制度あり	富山市の後援取得により 国際会議場割引あり	×
PCO、旅行会社等の 紹介	○	○	○
各種都市紹介資料の 提供	日・英・中・韓	日・英・中・韓	日・英・中・韓
ボランティアの手配	語学ボランティア 運営ボランティア	運営ボランティア	語学ボランティア 運営ボランティア
アトラクションの提案	○	○	○
観光案内資料等の 提供	日・英	日・英	日・英・中・韓

資料:JNTO ホームページ「都市別支援メニュー」および各都市の資料より作成

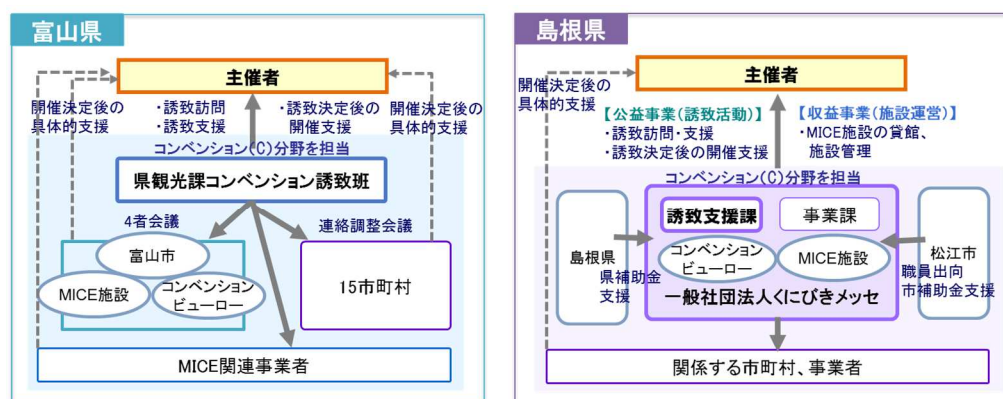
(4) 誘致推進体制と活動の状況

富山県では、県観光課コンベンション誘致班が中心となって、開催地決定前から決定後まで主催者と地元受入側の間に立ち、支援や調整を行っている特徴がある。

島根県では、くにびきメッセ（松江コンベンションビューロー）がコンベンション分野に特化し、公益事業としての誘致活動と収益事業としてのMICE施設運営を行っている特徴がある。

2 県の誘致活動に共通するポイントは、①選択と集中の戦略をとり、②情報を集約し、③迅速な意思決定を通じ実行に移し、④人材を重視した誘致活動を行っていることである。

■主催者・誘致関係者の関連図イメージ



Ⅲ 本県の MICE 推進の方向性

1 MICE 推進の方向性

(1) 方向性

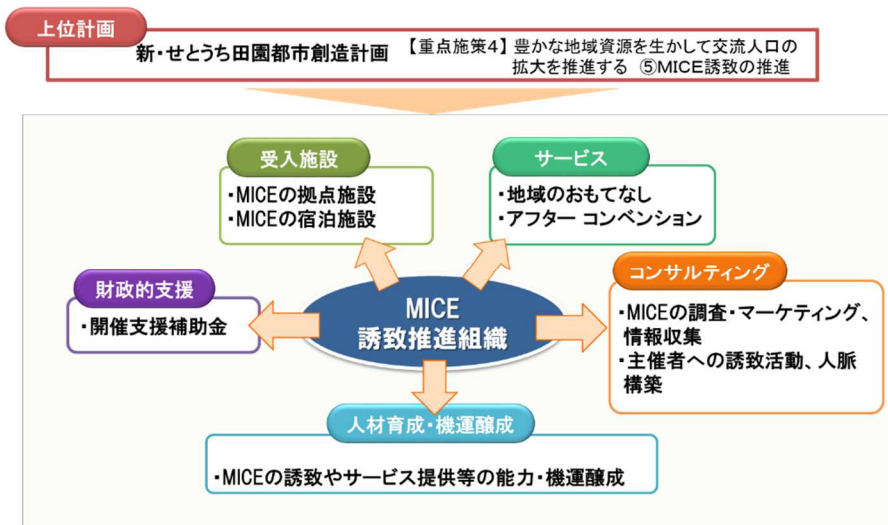


(2) 本県の推進方策の構成

方向性に対応する本県の MICE 推進方策について、次のとおり分類する。

推進の方向性	推進方策
1 MICE 環境のレベルアップ	① 参加者の受入環境の整備 ② 主催者支援、参加者への対応の充実
2 MICE 誘致の強化	① 誘致推進組織 ② マーケティング ③ 人材育成、機運醸成 ④ 財政的支援

推進方策を実現するためには、「誘致推進組織」を中心に、関係機関が連携して取り組むことが重要である。



IV 本県の MICE 推進の課題と方策

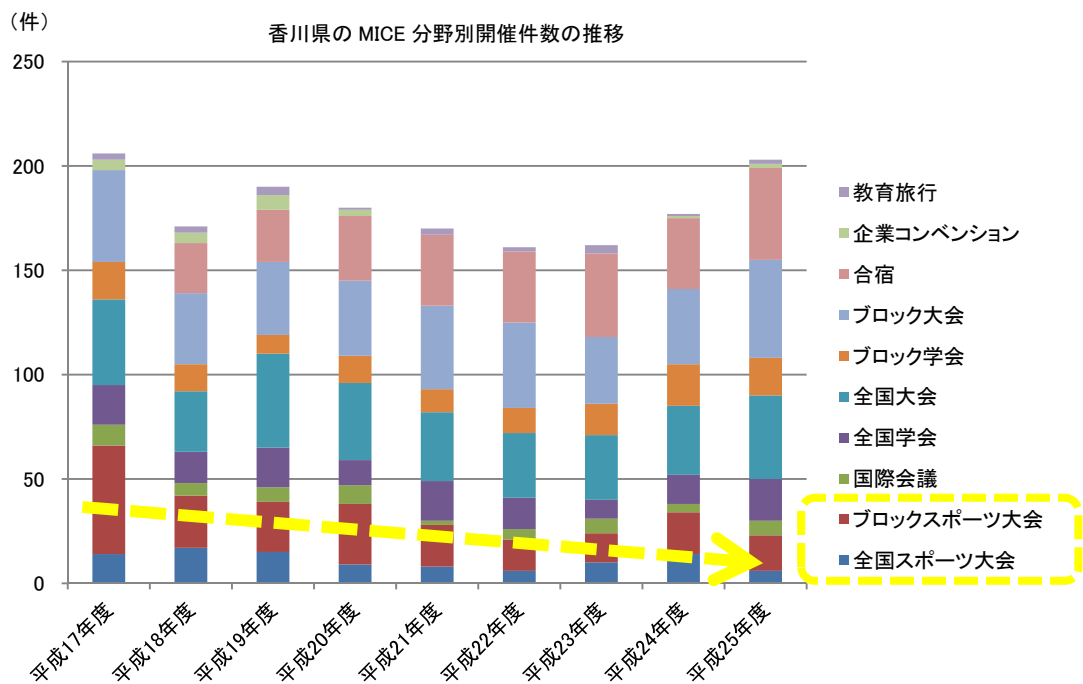
1 MICE 環境のレベルアップ

①参加者の受入環境の整備

課題

宿泊施設や展示会場、スポーツ大会の収容力不足による機会損失の歯止めに向けた動き

- ・ 宿泊施設や展示会場、スポーツ大会の収容力不足による機会損失が発生しているため、その歯止めが必要である。
- ・ 医学系学会会議開催時に、サンポート地区の現状の MICE 施設だけでは、特に出展者のための展示会場が不足し、ニーズに対応できない場合がある。
- ・ 体育館等スポーツ施設が不足している結果、MICE 参加者が県外に流出する機会損失が発生しているのであれば、必要な機能や規模等を早急に検討し、整備計画に着手する必要がある。
- ・ 一般的に、公共施設の運用開始から解体処分までのライフサイクルコスト（LCC）は、建設コストの4～5倍かかると言われ、新設施設の整備には運用開始後のLCCの観点からも勘案する必要がある。
- ・ 大規模なコンベンション開催時には宿泊施設が高松市では不足するため、広域的な宿泊へと分散せざるを得ない。そのためには、2次交通の確保が必要となる。



資料:「コンベンション関係統計資料」(公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロー)

方策

MICE 施設の必要機能・規模の方向性や目標等の検討

- ・短期的には、既存施設の機能や規模の分析を行い、可能な限り既存施設を有効活用する。
- ・中長期的には、誘致ターゲットを定め、需要予測や投資タイミングを考慮しながら、広域的な宿泊に対応するための2次交通の整備や宿泊施設を誘致することが考えられるほか、MICE 施設については再整備や新設等を検討する必要がある。
- ・展示会場不足とスポーツ大会ニーズを満たすには、多機能型のアリーナを整備することも考えられる。
- ・施設整備は、純粋な民間事業として実施される場合と、公共事業として実施される場合がある。公共事業の場合でも PPP/PFI 手法により民間事業者を活用し、資金調達、設計・建設、運営等を委ねる場合もある（手法により民間事業者の関与の度合いは異なる。）
- ・公民いずれが主体になるにしても、MICE 開催需要（利用見込み、利用規模）に見合う仕様・規模をおさえ、既存施設とのすみわけをした上で施設整備計画を立てないと当初想定した効果が得られない可能性がある。
- ・県や高松市から具体的な方針や目標設定が必要であり、主催者へのアンケートやヒアリング等（アクセス、収容力、会場種類、隣接ホテル、周辺の商業・物販機能等）を通じ、利用が見込まれるニーズを把握することが必要である。

②主催者支援、参加者への対応の充実

課題

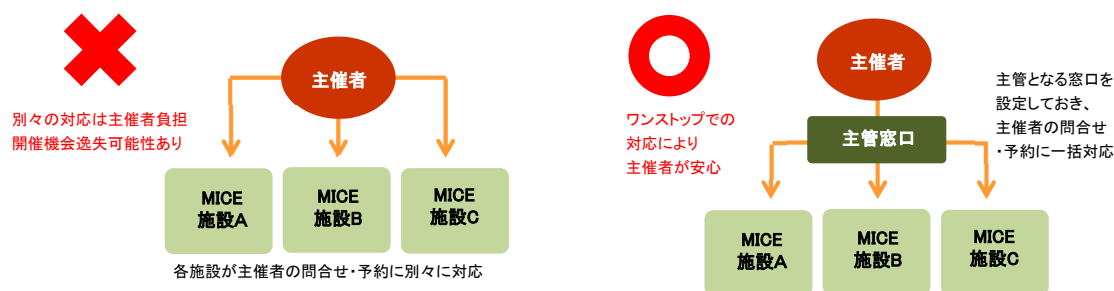
ワンストップサービスによる主催者支援

- ・会場の予約は、基本的に個々の施設が個別に対応している。
- MICE では、一つの施設だけでなく複数施設を同時利用することが多いため、ワンストップサービスで複数施設を一体的に利用できるよう調整が必要である。
- ・現状のままでは、主催者が個別に施設に問合せや調整をすることになり、煩雑で負担となる。

方策

「主管窓口」の設定や大規模 MICE でのルール共通化や連携

- ・「主管窓口」を設定し、予約対応と利用に関わる調整をワンストップで対応し一体の施設として調整や提案をすることで、主催者の事務局業務の負担軽減を図る。
- ・運営要員や備品を合理化する提案もでき、費用削減が可能である。
- ・実現のためには、「主管窓口」を決めておくこと、大規模 MICE 誘致における連携体制の確立や利用上のルールを一部共通化しておくことが必要である。



【窓口を一本化して主催者へ対応】

- ・会場問合せ、予約受付、仮予約、会場下見対応
- ・会場使用計画の提案、使用範囲の調整（会場、施設間の共用部も）、使用設備や備品の提案
- ・会場料金の支払いや請求など経理手続き
- ・開催補助金の申請手続き など

【ルールを共通化して主催者へ対応】

- ・予約受付開始時期
- ・営業日、営業時間
- ・開催補助金の申請書類様式の統一 など

課題

アフターコンベンションの受入環境の充実

- ・ エクスカーションにおける体験プログラムの受入規模の強化や歓迎パーティの受入先の開拓を行う必要がある。
- ・ 高松駅からサンポートのMICE施設へのアクセス整備や、アフターコンベンションのインフラの充実が考えられる。

方策

アフターコンベンションの現況を把握した上での一層の活用と新たな開拓

- ・ 主催者や参加者に強く印象づけるために、地域の特色を生かしたプログラムの開発を図る。
- ・ 利用しやすいユニークベニューを増やし、ストーリー性のある体験プログラムを充実させ、それらにアクセスするためのインフラを整備を検討し、主催者と利用者の満足度を高める必要がある。
- ・ ユニークベニューの実施にあたり、多くの所轄や関係者との調整が必要な場合は、窓口を一本化させて対応する必要がある（飲食利用可能など施設の規制緩和や、利用手続きの簡素化、主催者に対するインセンティブなど）。
- ・ 施設のリスト化や利用ルールの明確化等の利用しやすい条件環境を整備し、誘致担当者やMICE事業者等へ情報提供を図る。
- ・ その他、需要と集客の動向や施設の稼働などの現況を把握した上で、整備等の検討が必要となるものも考えられる（高松駅からの屋根付き通路、船舶チャーター便等）。

香川県のユニークベニュー・アフターコンベンション



栗林公園商工奨励館



史跡高松城跡玉藻公園



サンポート高松大型テント広場



うどんづくり体験



丸亀うちわ作り体験

ユニークベニュー ベストプラクティス集 香川・高松の事例

●プログラム概要

- ・ 空間、空間、食、器、五感で讃岐をいたたくトータルプロデュース
匠のおもてなし「GOKAN DINING」
(2014年7月)
- ・ 高松城跡玉藻公園「披雲閣」
- ・ 食事提供数400人（無料開放入園者数約5,000人）
- ・ 重要文化財指定の「披雲閣」内で、伝統工芸の匠の器と瀬戸内の食、ジャズ演奏を堪能する、五感を刺激するイベントを実施。
- ・ 匠がおもてなし役となったことで、交流が生まれ文化理解の促進、ロコミ醸成への橋渡しにもなった。
- ・ 夜間利用で庭園までのライトアップにより、特別感の演出が高く評価

●実施体制

- ・ 高松市が高松城跡玉藻公園管理事務所と事業委託契約を締結し実施。
- ・ 企画・運営事業者が指定管理者と一体になって取組み、多くの関係機関と連携・調整し、3カ月間の短期間で準備遂行

2 MICE 誘致の強化

① 誘致推進組織

課題

「オールかがわ」の体制での誘致・受入組織の必要性

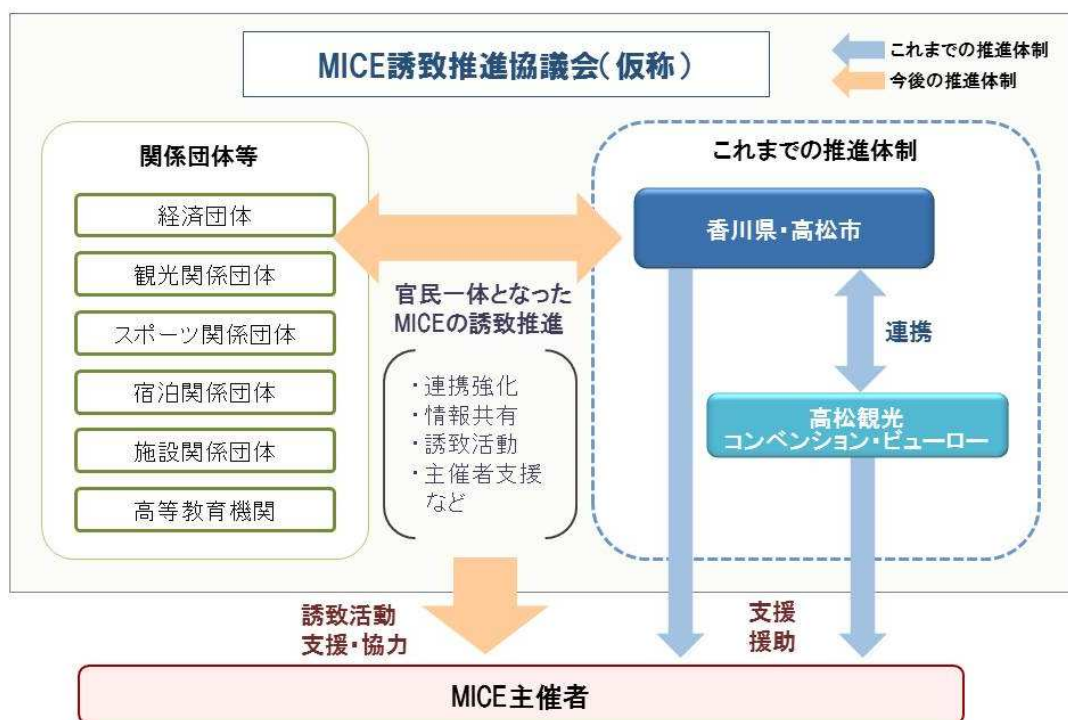
- ・ MICE の開催情報や主催者情報は行政やビューロー、施設等がそれぞれ保有している。
- ・ 大規模 MICE や誘致可能性の高い MICE については、複数の当事者に関係し、主催者に迅速に対応するためには情報の共有や連携が不可欠である。
- ・ 大規模な MICE の場合、複数年に渡り誘致に取り組むため、中長期の見込みとともに、受入れ側の MICE 施設の予約状況や宿泊施設の収容力のタイムリーな把握が必要である。
- ・ MICE 関係機関が一丸となって誘致推進に迅速に取り組む体制を整備する必要がある。

方策

官民一体となった MICE の誘致推進組織の設置

- ・ 県が事務局となって、県や市町、関係機関の緊密な連携をとり、誘致推進組織を設置し、望ましい取組み体制を検討して、役割分担の明確化を図る。
- ・ 行政やビューロー、施設等が保有する開催情報や主催者等の情報、会場及び客室の予約状況等を共有し、目標達成に向けて進捗管理を行いながら、着実な誘致活動を図る。
- ・ 開催見込みのある案件の中から、協働での取組案件の絞り込み、未開拓の分野での誘致の可能性を検討する。
- ・ 大規模 MICE や誘致可能性の高い MICE の情報をつかめば、主催者との関係性を強化し、迅速に支援する体制を検討する。
- ・ 県が掲げる参加者数の年度目標を達成するため、年間の誘致見込みを想定し累積参加者数の進捗管理に努める。

■MICE 誘致推進組織のイメージ



【誘致推進組織の役割】

- ・ 本県の MICE 誘致推進の戦略や方針案の作成
- ・ 誘致推進中の学会や業界団体、省庁などの主催者動向情報の共有
- ・ 新規見込み案件や取組み体制、施設間での連携及び役割分担等の協議
- ・ アフターコンベンションの新サービスやプログラム等の情報共有
- ・ 成功、失敗等のケースの共有、研修
- ・ 各組織の関係団体等への誘致の機運醸成と誘致活動の促進
- ・ 他県や他都市の MICE に関する動向等把握、情報共有 など

※高松観光コンベンションビューローとの役割を整理する必要がある。

②マーケティング

課題 首都圏における誘致活動強化

- ・地元の主要大学を除き、コンベンションを開催する可能性のある主催者は首都圏に集中しているため、首都圏の主催関係者へのアクセスが重要である。
- ・セールスツールの訴求力強化が必要である。

方策 首都圏への出張機会の増加やセールスツールの拡充

- ・同じ担当者又は誘致チームが人脈をつくりながら継続して誘致活動を実施する体制の構築を図る。
- ・首都圏への出張機会の増加や首都圏に誘致担当者を配置することによる情報収集や支援の迅速化が望まれるが、費用対効果を考慮し、誘致対象を絞り込んで活動することが必要である。
- ・現状を認識している主催者の本県への期待やニーズ、課題等をまとめ、セールスポイントを検討し、MICE に特化した PR 映像など誘致セールスツールの制作を検討する。
- ・首都圏の旅行業者等に誘致を委託するなど、効果的な制度を研究する。

課題 キーパーソンの開拓、支援強化

- ・学術系コンベンションの誘致においては、内外に発言力や人脈を有するキーパーソンへのアプローチが重要である。
- ・地元の大学及び研究機関の研究者や教授、業界団体、主要企業等との定期的な情報交換や誘致訪問が必要である。

方策 大学等に対する誘致活動の強化、開催見込み案件の増加と確度向上

- ・県内大学の教授等のキーパーソンに対してタイムリーな情報提供や支援を行うことにより連携を強化し、大学とのネットワークの構築を図る。
- ・開催可能性のある主催者に対して、迅速な支援を行うことにより他都市からの優位性を確保する。
- ・MICE アンバサダー※への訪問やキーパーソンの紹介等を通じて、迅速な開催情報の収集や開催を立候補する主催者への支援体制の構築に努める。

※MICE アンバサダー

2013年から観光庁が、国内外において学識、名声があり、専門分野において影響力のある人材を MICE 分野における「日本の顔」として任命し、国・都市の広報活動や国際会議の誘致活動に寄与を支援するプログラム

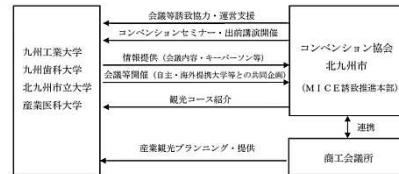
アンバサダーは、日本開催を PR し、主催者に立候補を働きかけ、開催地決定権限のある幹部に根回しし、その他関連の情報収集・発信活動を行うなどの役割が期待されている。

他県の事例

コンベンション誘致・開催に関する大学との連携協定の事例

行政・コンベンションビューロー	大学等
広島市 (公財)広島観光コンベンションビューロー	広島大学
北九州市 (公財)西日本産業貿易コンベンション協会	九州工業大学 九州歯科大学 北九州市立大学 産業歯科大学 北九州商工会議所
京都市	京都大学
岡山市	岡山大学
(公財)名古屋 観光コンベンションビューロー	名古屋大学
長崎市	長崎大学
仙台市	東北大学

北九州市における主な連携内容



左記の協定内容「報道発表資料」
(北九州市 平成 27 年 7 月 28 日)より

課題

主催者の声の収集

- 本県で開催される MICE については、主催者や参加者から、満足度や要望等の情報の蓄積が可能である。ただし、この声は MICE 主催者の一部であり、開催実績のない大部分の主催者の声は未反映である。
- 本県で MICE を開催したことがない主催者のニーズを具体的な計画や施策に反映させることが必要である。

方策

アンケートやヒアリングの実施による主催者ニーズの収集

- 本県の満足度や期待、強みなどとともに、現状の不足点や不満、課題を合わせて把握し、主催者ニーズの精度を高める。
- ヒアリングやアンケートの実施により、本県で MICE を開催したことがない主催者の声（開催しない理由など）を収集することで、潜在的なニーズを把握する。
- ヒアリングやアンケートの分析結果を活用し、「誘致推進組織」において、以下のような誘致活動やソフト・ハード面での方向性、施策の検討での活用を図る。

▽現状の誘致活動や誘致対象の見直し

▽おもてなしなどのサービス面の強化策やメニュー等新規開発の方向性の検討

▽大きな投資的支出を伴う新設の MICE 施設などの整備の方向性の検討 など

課題

MICE 開催情報や主催者情報の蓄積と一元管理・共有

- ・誘致活動は人づてで行うため、誘致担当者の異動等で人脈が途切れる場合、機会損失のリスクがある。
- ・電話やメール、誘致訪問等におけるやりとりの履歴管理が必要である。
- ・誘致から開催まで数年かけて取り組む MICE に対しては、チーム体制で複数の担当者が誘致・開催支援を行うため、主催者とのやりとりの情報を共有する必要がある。

方策

データベースによる情報管理

- ・データベースを活用し、開催情報や主催者情報の継続的な蓄積と一元管理を行い、必要に応じて共有することで誘致対象の絞り込みや機会損失の防止に役立てる。
- ・誘致活動のメンバーを中心に、入力・閲覧を可能にするなどアクセス設定を行い管理できれば、遠隔地間でもタイムリーに情報共有が可能である。

他県の事例(島根県)

松江コンベンションビューローのコンベンションデータベースの検索画面例

【データベースによる案件管理】

- ・情報件数 10,343 件
(県内開催見込案件 1,855 件)
- ・他都市で開催された中小規模案件も蓄積し活用
出所：平成 26 年度事業報告書

入力内容や設定

規模などの条件により、国際会議を以下のとおり分類して入力。

- A 開催可能、即時営業対象
- B 将来的に開催可能、長期の営業対象
- C 現状では開催不可能、営業対象外
- D 開催決定
- F 開催終了

入力項目

- ・会議名
- ・開催年
- ・開催地
- ・開催規模(参加者数)
- ・事務局連絡先
- ・事務局担当者 等

主催者等とのコンタクト履歴を逐次入力し、過去の履歴が一目でわかるようにしている。

開催年	開催月	決定時期	開催地	開催規模	備考
1年	1月	2ヶ月前	東京都	100名	
2年	2月	3ヶ月前	東京都	100名	
3年	3月	4ヶ月前	東京都	100名	
4年	4月	5ヶ月前	東京都	100名	

資料：「国際会議誘致ガイドブック」(平成 21 年 1 月)(観光庁)

課題

MICE 開催による経済波及効果の把握や地域への情報提供

- ・本県での MICE 開催による消費額が、県内にどのぐらい貢献しているのか把握しておくことが必要である。
- ・MICE 開催による消費額は、観光と異なり参加者の消費支出に、主催者の事業費支出がプラスされる。国際会議や全国大会など MICE 各分野によって消費額に相違がある。
- ・MICE 各分野ごとの経済波及効果の相違を把握し、今後の誘致対象を検討する際に活用する必要がある。

方策

主催者や参加者の消費情報を基にした経済波及効果の定期的測定

- ・主催者や参加者の消費情報を基にした経済波及効果の定期的な測定を行い、MICE 各分野における経済波及効果の相違の把握や関係者への情報提供を図る。
- ・他都市の公開データも参考になるが、地域差があるため、本県における効果測定の定期的な実施を図る。
- ・主催者や参加者の消費支出等のデータを収集し、観光庁の「経済波及効果算出の簡易モデル」を使用することで、簡便なカタチで集計可能である。

参考事例

観光庁の MICE 開催経済波及効果測定モデル

●消費額の入力画面

アンケートを通じて、参加者数や宿泊数、主催者の事業費等のデータが必要

MICE名称	MICE内容	開催日	終了日	日本人日数	日本人宿泊	外国人	旅行客数(人)	主催者事業費(万円)
1	国際会議-医学系	2014/5/1	2014/5/2	500	400	300	1,400	100,000
2	国際会議-医学系	2014/5/1	2014/5/2	500	400	300	1,400	100,000

※以下の通り3区分に細分化
 ①C (国際会議)-医学系、②C (国際会議)-科学・自然・技術、
 ③C (国際会議)-その他

●算出結果画面

県・市別に経済波及効果や税収効果等が自動的に表示

指標	全国	神奈川県	高崎市	単位
1.1 経済波及効果(1次～3次)	2,630.8	999.8	772.8	百万円
経済費額	1,230.4	1,230.4	1,230.4	百万円
1) 直接効果	1,186.8	691.3	557.7	百万円
2) 間接1次波及効果	865.0	173.2	115.1	百万円
3) 間接2次波及効果	578.8	142.3	100.4	百万円
1.2 旅行加価値誘致効果	1,441.5	574.8	468.0	百万円
1.3 就業効果	54,416.0	25,572.3	21,269.3	人・日

指標	全国	神奈川県	高崎市	単位
主要業種				
宿泊業	58.4	53.8	53.1	百万円
飲食店	135.9	123.2	121.7	百万円
対事業所サービス業	1,008.8	477.7	417.6	百万円

指標	全国	神奈川県	高崎市	単位
主要業種				
国庫	116.8	35.8	32.0	百万円
都道府県税	34.1	17.1	14.1	百万円
市町村税	27.8	17.4	14.5	百万円

③人材育成、機運醸成

課題

MICE 関係者の能力向上、人材育成

- ・誘致活動に伴う情報収集やネットワークの形成、MICE 施設の会場使用に伴う主催者への会場や機材の提案、MICE に関わる商品、サービスの提供を通じて、MICE 開催を成功させ、本県での開催件数を増やすためには、MICE の誘致から準備、当日の開催までに関わる各担当者の能力を向上させる必要がある。
- ・MICE に関しては、体系的に学べる機会や教材は少なく、また運営の現場で OJT だけで能力向上を図るには限度がある。

方策

業界団体等による研修や情報交換、学習機会への参加、 組織ノウハウへの集約

- ・各団体が定期的実施する職種別、階層別の研修や情報交換に参加することで、実践的な知識や提案力を習得することに努める。
- ・研修等で得られた成果を組織内で共有し、属人的になりがちな MICE 業務の情報やノウハウを組織的に蓄積、管理していくとともに、評価や処遇に活かしていくことが重要である。

【業界団体が提供する学習機会の例】

●日本政府観光局（JNTO）

MICE セミナー（基礎編・実践編）、国際会議誘致実務セミナー（中上級者向け）等

●（一社）日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー（JCCB）

コンベンション技能研修会、コンベンション・ビューロー部会、実務担当職員研修等

●全国展示場連絡協議会

ブロック総会、ブロック担当者会議、実務担当者会議等

●国際会議場施設協議会

リーダーズセミナー、実務研究会

●（公社）全国公立文化施設協会

（劇場ホール・音楽堂関係者の会員団体）アートマネジメント、技術職員の研修会（全国・ブロック別）、スタッフ交流研修会等

【その他自己啓発等による向上策】

●「イベント業務管理士」の資格取得支援

（一社）日本イベント産業振興協会が実施・認定する業界認定資格で、イベントの構造や企画・制作、運営、マネジメント等イベント全般についての知識の習得が可能である。

他県の事例(富山県)

- MICE 関連事業者の育成—タクシードライバーの能力向上—
 - 平成 20 年度からコンベンション参加者を対象に、観光利用のタクシー料金が半額となる「コンベンションタクシー」制度を実施
 - タクシードライバーは富山県の第一印象を左右するため、ドライバーを対象に、接客・観光に関する研修を実施（おもてなしに関する初級研修として位置づけ。コンベンションタクシーのドライバーも受講）
 - 平成 25 年度からは、この中でも特に質の高いドライバーを表彰する制度を開始

他県の事例(島根県)

- MICE 施設担当者の育成—先進的コンベンション施設との人事交流—
 - 誘致活動の強化や MICE 施設の利用率向上を図るため、施設担当者をパシフィコ横浜に派遣し、職員の接客技術や施設・設備の運営、利用者対応等について研修を実施
 - 平成 22 年に協定を締結し、継続中
- 市民の MICE 受け入れ意識の醸成—英語ボランティアの育成—
 - 語学ボランティアを組織し、国際会議を迅速にサポートするとともに、市民の受け入れ意識の醸成や海外参加者との交流機会を創出
 - 平成 26 年中から継続中、約 40 名が登録

④財政的支援

課題

開催支援補助金の有効活用

- ・開催補助金の支援対象が県の場合は企業コンベンションは含まれておらず、国際会議や学会、大規模な国内大会である。高松市の場合は「グレーター高松」（高松市、三木町、綾川町、直島町）の範囲に限定されている。
- ・他県（富山県、島根県）の開催支援メニューと大きな差はない。
- ・本県の独自性のある支援メニューの開発が望まれる。

支援メニュー	(公財)高松観光 コンベンション・ビューロー	(公財) 富山コンベンションビューロー	松江コンベンションビューロー (一財)くにびきメッセ
助成金制度	最高限度額 1,000万円 国際会議の場合 香川県と高松市合算	最高限度額 1,300万円 国際規模の場合 富山県と富山市合算	最高限度額 1,000万円 島根県と松江市合算
開催地立候補の 提案書類の作成	○	○	○
事前視察の受入れ	○	○	○
宿泊施設の割引	×	×	×
会議施設の割引	施設により早期割引制度あり	富山市の後援取得により 国際会議場割引あり	×
PCO、旅行会社等の 紹介	○	○	○
各種都市紹介資料の 提供	日・英・中・韓	日・英・中・韓	日・英・中・韓
ボランティアの手配	語学ボランティア 運営ボランティア	運営ボランティア	語学ボランティア 運営ボランティア
アトラクションの提案	○	○	○
観光案内資料等の 提供	日・英	日・英	日・英・中・韓

資料：JNTO ホームページ「都市別支援メニュー」および各都市の資料より作成

方策

開催支援補助金の対象見直し等により、受入れ先の誘致力強化・開催地決定を促進

- ・主催者にとって使い勝手がよく、誘致確度を高める支援メニューの見直しを行い、本県の独自性のある開催支援メニューの開発を検討する必要がある。